

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 大学院医歯薬学総合研究科(医学系)
医療教育統合開発センター

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	<p>1. 大学院医歯薬学総合研究科(医学系)</p> <p>1) 研究科各専攻の機能を生かし、保健学研究科、医療教育統合開発センターと連携して、横断的なコア・カリキュラムを企画する。各種コースワークでは、技術の高度化と現代的医療ニーズに対応した高度医療専門職を養成し、既成の専門資格を得るための知識・技能だけでなく、チーム医療、地域医療、病院管理など医療をマネジメントできる能力を養う。</p> <p>2) 卒後臨床研修制度運用の見直しに伴い、学部、大学院、病院と連携して、ローテート研修、レジデントによる後期研修、社会人大学院の一体運用などを行い、高度専門医療職、研究職を目指す人のための先進医学修練コースを準備する。</p> <p>3) 大学院と学部のシームレスな連携のもとに、学部一大学院共通科目(二枚看板方式を含む)を実施し相互補完的・効率的な授業運用を展開する。</p> <p>4) 大学院教育の実質化を引き続き進め、講義については社会人大学院生の学習の便宜を図るためe-ラーニング化とコンテンツの集積を図る。</p> <p>5) 研究指導計画書に基づいて大学院生の研究指導体制の強化を図り、留年者抑制対策に努める。</p> <p>6) 国際協力として、「O-NECUSプログラム」による中国東北部の複数大学から大学院学生の受け入れを実施し、大学院教育改革支援プログラムのユニット教育による国際保健実践の人材育成を行う。</p> <p>7) 女性医療職のキャリア支援として就労をサポートする活動を引き続き継続する。</p> <p>8) 「大学院連携型高度医療人養成推進事業」について、後期研修医の他大学病院への派遣研修を実施する。</p> <p>9) 岡山大学と岡山市の連携による岡山総合医療センター構想により、平成22年度から設置予定のER研修指導を担う地域医療医学講座(寄附講座)の開設準備にあたる。</p> <p>10) 科学技術振興調整費「遺伝子・細胞治療に携わる臨床研究者養成」に基づく教育・研究支援を推進する。</p> <p>11) 薬学部6年制の進行に伴う大学院専攻の再編、鹿田地区における臨床教育体制の整備を行う。これらふまえて薬学部及び大学院の鹿田キャンパス移転に向けた具体的計画を推進する。</p> <p>2. 医療教育統合開発センター</p> <p>1) 臨床教育の新しい方式としてのシミュレーション教育組織を整備する。医療教育統合開発センターはその企画・運営を担う。保健学研究科との協力により、模擬患者の協力によるロールプレイ教育や各種シミュレーターを駆使したシミュレーション教育を統合した新しい教育システムを開発する。</p>	<p>1. 大学院医歯薬学総合研究科(医学系)</p> <p>1) 課題セミナーに、新たに「コメンテーター」制度を導入し、発表した全学生に対して、専攻系の枠を超えた多彩なコメンテーターから助言が与えられるようになった。</p> <p>2) 特筆すべきは、「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に本研究科から申請したプログラム「ARTプログラムによる医学研究者育成」が採択された(H21年8月)。実施2年目としての活動を推進し、平成22年度は、前年を大幅に上回る6名を受け入れ、計9名となる。</p> <p>3) プレARTの科目等履修生の枠を拡大し、H22年3月時点で医学科学生23名(新4年7名、5年8名、6年8名)の申請を承認した。</p> <p>4) 高度臨床専門医コース、がんプロセスにおいて本格的なe-ラーニングを構築、実施した。</p> <p>5) E-Gradを導入した。また在学期間が長期になっている学生に対して、学位取得計画についてアンケート調査を実施した。</p> <p>6) 平成21年度「O-NECUSプログラム」受け入れは6人。大学院教育改革支援プログラムのユニット教育による国際保健実践の人材育成の最終成果報告会をH21年12月実施し、3年間計28ユニットのユニットリーダーが成果を報告した。</p> <p>7) 女性医療職のキャリア支援として復職につながった者が37名にのぼる。成果報告会&特別講演会をH21年12月開催、外部評価委員から高い評価を得た。</p> <p>8) 山陽路・高度医療人養成プログラム―山陽地方4大学病院連携による専門医養成システム―を参加校として推進した。</p> <p>9) 地域医療学講座(岡山市の寄附講座)の開設準備を完了し、新教授が着任する(平成22年4月1日発令)。</p> <p>10) 事業成果報告会をH22年3月開催し、国の科学技術政策立案に大きな提言を行い外部有識者により高い評価を受けた。本事業は、本年度設立の新医療研究開発センターに継承され、大学の臨床研究の推進の体制が整備された。</p> <p>11) 鹿田地区における臨床薬学教育体制の整備のため、H22年3月までに既存建物の改修を行った。</p> <p>2. 医療教育統合開発センター</p> <p>1) 昨年度来のシミュレーション教育推進の取り組みは、概算要求の予算配分に結実し、チーム医療教育WGを設置して体制を整備している。</p>	達成度: 4 ③ 2 1	
	研究	<p>1) 専攻別にミニシンポジウムを開催する等専攻系を中心にプロジェクトを掲げ、協力して研究を行い、共同研究推進の種とする。専攻会議は研究を企画、実施、管理、評価する。</p> <p>2) 治験センター、遺伝子・細胞治療センター、ナノバイオ標的医療イノベーションセンターを拠点とするトランスレーショナル・リサーチ、臨床研究を促進する。科学技術振興調整費「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成」の継続を図る。</p> <p>3) 大学間協力により治験ネットワークをさらに広域化し、臨床研究の効率化と質の向上を図り、臨床研究を支えるとともにその人材を養成する。</p> <p>4) 横断的診断活動の拠点としてのキャンサー・ボードを「がんプロ養成プラン」のもと一つの組織として運営し、活動の幅を拡大する。</p>	<p>1) H21年3月の「生体制御科学専攻シンポジウムと岡山脳研究セミナーの合同シンポジウム」など、専攻別にミニシンポジウムを開催した。</p> <p>2) 科学技術振興調整費「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成」は「終了課題」と決定した。しかしナノバイオ標的医療拠点形成は、本年度採択の岡山メディカルイノベーションセンター(OMICS)構想に引き継がれる。</p> <p>3) 病院に平成21年度新医療開発センターを設置し、新教授2名が着任し、臨床研究の体制の整備が進んだ。</p> <p>4) キャンサー・ボードでは、診療科を超えた診療、多職種参加のチーム医療の実践、院内がん登録の一元化など、活動の幅を拡大した。</p>	達成度: 4 ③ 2 1
診療・社会貢献	<p>1) 岡山大学病院での診療の項目は、岡山大学病院の項に同じ。</p> <p>2) 行政当局、関連病院、NPO法人岡山医師研修支援機構等と協力し、地域医療の支援に努める。</p> <p>3) 市民公開講座、一般市民を対象とする講演会などに積極的に参画し、医療情報の発信に努める。</p> <p>4) 所属教員が学会、研究会等を主催する際は、市民公開講座、他大学生、高校生の招待など、社会に開かれた運営に努める。</p> <p>5) アジア地域の各大学、研究機関と連携し、教育・研究協力、医療支援、留学生の受け入れを積極的に進める。</p> <p>(項目2-5は、医学部の社会貢献の対応する項目と同じ。項目2は本研究科教育目標7~9と関連、項目5は本研究科教育目標6と関連する)</p>	<p>1) 岡山大学病院での診療の項目は、岡山大学病院の項に同じ。特記事項として、単年度黒字を達成する見込みである。</p> <p>2) 岡山県地域医療再生計画が採択され、県による寄附講座の開設準備を進め、H22年5月には新教授2名が着任する。</p> <p>3) H21年8月、岡山健康講座2009-やさしい保健と健康の話を保健学研究科と共催した。</p> <p>4) 第97回日本泌尿器科学会総会(H21年4月岡山市)で、市民公開講座「明日は変えられる さわやかシニアの泌尿器科的アンチエイジング」を開催した。</p> <p>5) H21年9月国際シンポジウム「アジアにおける公衆衛生人材育成」を開催し、シンポジウム前日については、A-SPH 連携予定校である、タイ国のチュラロンコン大学と実務者協議を行った。</p>	達成度: 4 ③ 2 1	
客 観 的 指 標	事項	前年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率			
	大学院充足率	修士 135% 博士 99%	修士課程に於いて、入学者数の適正化を図り、仕組みを整える。	修士 125% 博士 88%
	科研究費申請率	87.3%	増加に努める。	88.03%
	科研究費採択率	24.20%	増加に努める。	25.87%
	共同研究件数	22	増加に努める。	19
	受託研究件数	39	増加に努める。	33
	留年・休学・退学者数	修士 留年0 休学1 退学1 博士 留年225 休学105 退学8	(今年の状況) 大学院教育の実質化を前進させ留年者・休学者・退学者を抑制するよう努める。	修士 留年1, 休学1, 退学0 博士 留年113, 休学148, 退学16
就職率	81%	修了者の就職を支援するため就職ガイダンスを継続して行う。	現在集計中	
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>上記の通り、多くの目標を設定し、その全てにおいて取り組みを展開し、相応以上の成果を上げた。特筆すべきは、ARTプログラム等による医療人のシームレスなキャリア形成の推進、岡山県、岡山市との地域医療連携の推進、ナノバイオ標的医療のOMICS事業の採択などである。</p> <p>課題としては、休学者数の増加で、要因を分析し、対策を検討したい。</p> <p>次年度にむけては、これらを中心に、より重点を置いた組織目標を策定し、それを着実に実現していきたい。</p>				

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)